

# 地域医療構想を推進するための 補助金・給付金について

## 「病床廃止等事業」の概要

地域医療介護総合確保基金（医療分）を活用  
最終改正 令和2年4月1日

補助対象：病院、有床診療所

▼ 地域医療構想に基づく事業再構築に伴う病床廃止に際して発生する経費について、以下の支援を実施 ▼				
区分	実施設計	病床廃止を伴う施設転換	病床廃止に伴う施設等処分 <sup>(注)</sup>	退職者に係る人件費
対象経費	○ 病床廃止に伴い不要となる病室等を、県の医療提供体制の充実に資する施設に転換するために要する実施設計に係る委託料	○ 病床廃止に伴い不要となる病室等を、県の医療提供体制の充実に資する施設に転換するために要する工事費又は工事請負費 ○ 当該転換後の施設で使用する設備に係る備品購入費	○ 病床廃止に伴い不要となる病室等や医療機器の処分に係る特別損失で、次のいずれかの勘定科目に該当するもの ・ 固定資産除却損 ・ 固定資産廃棄損 ・ 固定資産売却損	○ 就業規則等で定めた早期退職制度の活用により上積みされた退職金の割増相当額
基準額	<u>500千円</u> × 廃止病床数	<u>3,624千円</u> × 廃止病床数	<u>2,000千円</u> × 廃止病床数	<u>6,000千円</u> (早期退職制度を活用する職員1人あたり)
補助率	(本則) 2分の1以内で別途定める率 ただし、 <u>令和5年3月31日までは2分の1を適用</u>	(本則) 2分の1以内で別途定める率 ただし、 <u>令和5年3月31日までは以下の率を適用</u> 令和元年7月1日～令和3年3月31日 <u>4分の3</u> 令和3年4月1日～令和5年3月31日 <u>3分の2</u>		
補助要件	介護保険法の適用される施設に転換する場合は、次の要件を満たすこと ◆ 転換に当たって他に活用できる補助制度がないこと ◆ 転換後の施設が、病院又は診療所により運営されること		次の要件を満たすこと ◆ 事業計画承認の翌々年度までに交付申請を行うこと ◆ 処分する施設又は設備は、和歌山県地域医療構想の公示の日(平成28年6月7日)前に取得したものであること ◆ 処分する施設又は設備が別の補助金等により整備されたものであり、かつ、所定の処分制限期間が経過していない場合には、処分に係る国・県等の承認を受けているか、当該補助金等の返還を行っていること ◆ 施設又は設備を関係事業者への売却により処分する場合は、複数の不動産鑑定士や専門事業者の鑑定によって、市場価格と大幅な乖離がないと認められること	
	<div>療養病床から介護医療院、介護老人保健施設等への転換については、以下の補助制度があります。</div> <div>             &gt; 医療療養病床からの転換の場合              病床転換助成事業              &gt; 介護療養病床からの転換の場合              地域医療介護総合確保基金（介護分）による施設等整備事業           </div>		次の要件を満たすこと ◆ 和歌山県地域医療構想の達成に向けた病床廃止に伴い早期退職する職員に係るものであること ◆ 病床廃止のほか、病床機能転換による早期退職についても補助対象とするが、その場合には、補助金の交付申請を行う前に、当該事業の実施について地域医療構想調整会議の合意を得ておくこと	

次の事業については、着手前に事業計画の承認が必要  
 ・ 病床廃止に伴う施設転換のうち、複数年度にわたる工事  
 ・ 病床廃止に伴う施設等処分  
 > 承認された年度の補助率を事業完了まで適用

(注) 「病床廃止を伴う施設等処分」においては、処分に着手する前に事業計画の承認を受け、その後、当該処分を完了し特別損失を財務諸表に計上した時点で交付申請を行います。

第 1 回 医 療 政 策 研 修 会 第 1 回 地 域 医 療 構 想 ア ド バ イ ザ ー 会 議	資 料 3
令 和 2 年 1 0 月 9 日	

# 新たな病床機能の再編支援について



厚生労働省医政局地域医療計画課

# 新たな病床機能の再編支援について

令和3年度要求額：事項要求  
(令和2年度予算額：84億円)

中長期的な人口減少・高齢化の進行を見据えつつ、今般の新型コロナウイルス感染症への対応により顕在化した地域医療の課題への対応を含め、地域の実情に応じた質の高い効率的な医療提供体制を構築する必要がある。

○こうした中、地域医療構想の実現を図る観点から、地域医療構想調整会議等の合意を踏まえて行う自主的な病床削減や病院の統合による病床廃止に取り組む際の財政支援を実施する。【補助スキーム：定額補助(国10/10)】

令和3年度以降においては、地域医療構想調整会議における議論の進捗等も踏まえつつ、消費税財源による「医療・介護の充実」とするための法改正を行い、これに基づき病床機能の再編支援を実施する。

## 「病床削減」に伴う財政支援

病床を削減した病院等（統合により廃止する場合も含む）に対し、削減病床1床あたり、病床稼働率に応じた額を交付

病床削減後の許可病床数が、平成30年度病床機能報告における稼働病床数の合計の90%以下となること

許可病床から休床等を除いた稼働している病棟の病床の10%以上を削減する場合に対象

## 「病院統合」に伴う財政支援

【統合支援】 統合（廃止病院あり）を伴う病床削減を行う場合の  
コストに充当するため、関係病院全体で廃止病床1床あたり、病床稼働率に応じた額を関係病院全体へ交付（配分は関係病院で調整）

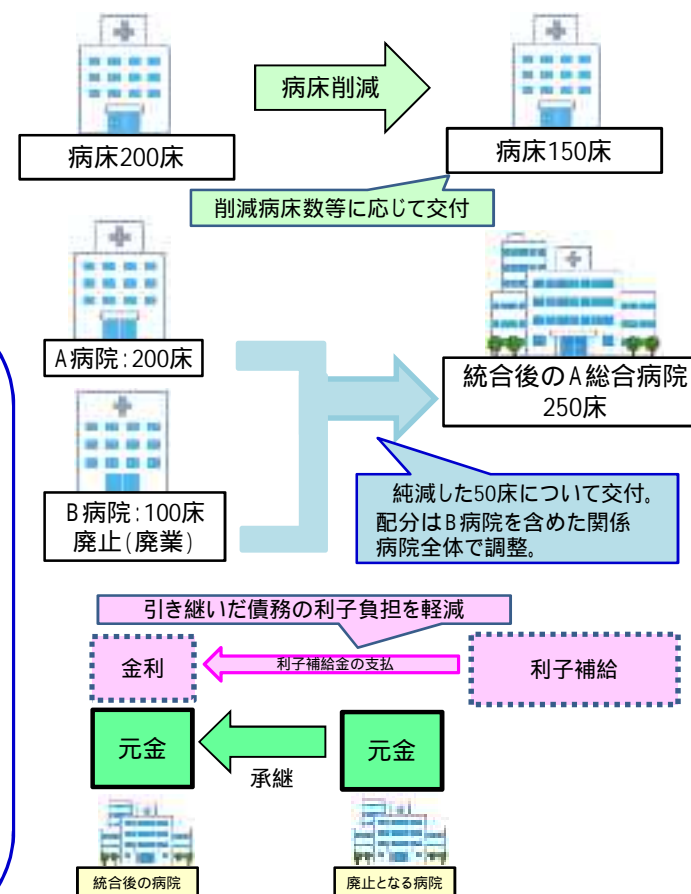
重点支援区域のプロジェクトについては一層手厚く支援

病床数を関係病院の総病床数の10%以上削減する場合に対象

【利子補給】 統合（廃止病院あり）を伴う病床削減を行う場合において、廃止される病院の残債を統合後に残る病院に承継させる場合、当該引継債務に発生する利子について一定の上限を設けて統合後病院へ交付

病床数を関係病院の総病床数の10%以上削減する場合に対象

承継に伴い当該引継ぎ債務を金融機関等からの融資に借り換えた場合に限る。



# 1. 医療機能の分化・連携に必要な病床削減支援

地域医療構想の実現のため、病院又は診療所であって療養病床又は一般病床を有するものが、病床数の適正化に必要な病床数の削減を行う場合、削減病床に応じた給付金を支給する。

## 支給対象

平成30年度病床機能報告において、平成30年7月1日時点の機能について、高度急性期機能、急性期機能及び慢性期機能（以下「対象3区分」）のいずれかの医療機能を選択した病棟の稼働病床数を1床以上報告し、令和2年4月1日から令和3年3月31日までの間に対象3区分のいずれかの病床削減を行う病院等（以下「病床削減病院等」という。）の開設者又は開設者であった者。

## 支給要件

地域医療構想を実現するため、病床削減の対象病院等について、病床の機能分化・連携に必要な病床数の削減を行うものであるという、地域医療構想調整会議の議論の内容及び都道府県医療審議会の意見を踏まえ、都道府県が必要と認めたもの。

病床削減病院等における**病床削減後の許可病床数が、平成30年度病床機能報告における稼働病床数の90%以下**であること。

同一年度内に病床削減支援給付金の支給を受けていないこと。

同一年度内に病床削減病院等の開設者が、同じ構想区域内で開設する病院を増床していないこと。

## 支給額の算定方法

平成30年度病床機能報告において、対象3区分として報告された病床の稼働病床数の合計から一日平均実働病床数（対象3区分の許可病床数に対象3区分の病床稼働率を乗じた数）までの間の削減について、対象3区分の病床稼働率に応じ、削減病床1床あたりの額を支給。

一日平均実働病床数以下まで削減する場合は、一日平均実働病床数以下の削減病床については2,280千円/床を交付。

上記及びの算定にあたっては、**回復期機能への転換病床数及び介護医療院への転換病床数を除く。**

## 【イメージ】

（H30年度病床機能報告）

対象3区分の稼働病床数  
(病床稼働率75%)

病床25床  
病床75床  
(許可病床数100床×病床稼働率75%)

一日平均  
実働病床数

削減

病床25床  
病床5床  
病床70床

1,824千円/床  
×25床 =  
45,600千円

+α削減部分

2,280千円/床  
×5床 =  
11,400千円

補助金の算定の計算には休床分は含めない

病床稼働率	削減した場合の1床あたり単価
50%未満	1,140千円
50%以上60%未満	1,368千円
60%以上70%未満	1,596千円
70%以上80%未満	1,824千円
80%以上90%未満	2,052千円
90%以上	2,280千円

(45,600千円) + (11,400千円) = 57,000千円の交付

## 2. 医療機能の分化・連携に必要な医療機関統合支援

地域医療構想の実現のため、病院又は診療所であって療養病床又は一般病床を有するものが、病床数、病床機能、医療提供体制の適正化のために統合する場合、統合計画に参加する病院等に給付金を支給する。

### 支給対象

地域医療構想に基づく病院等の統合計画に参加し、平成30年度病床機能報告において、平成30年7月1日時点の機能について、高度急性期機能、急性期機能及び慢性期機能（以下「対象3区分」）のいずれかの病床の削減を伴う統合計画に、令和2年4月1日から令和3年3月31日までの間に合意した病院等（以下「統合関係病院等」）の開設者であること。

### 支給要件

地域医療構想を達成するために必要な統合であるとして、地域医療構想調整会議の議論の内容及び都道府県医療審議会の意見を踏まえ、都道府県が必要と認めたもの。

統合関係病院等のうち1以上の病院が廃止（有床診療所化、診療所化も含む）となること。

2025年度中までに統合が完了する計画であり、全ての統合関係病院等が計画に合意していること。

統合関係病院等の対象3区分の**総病床数の10%以上削減**すること。

### 支給額の算定方法

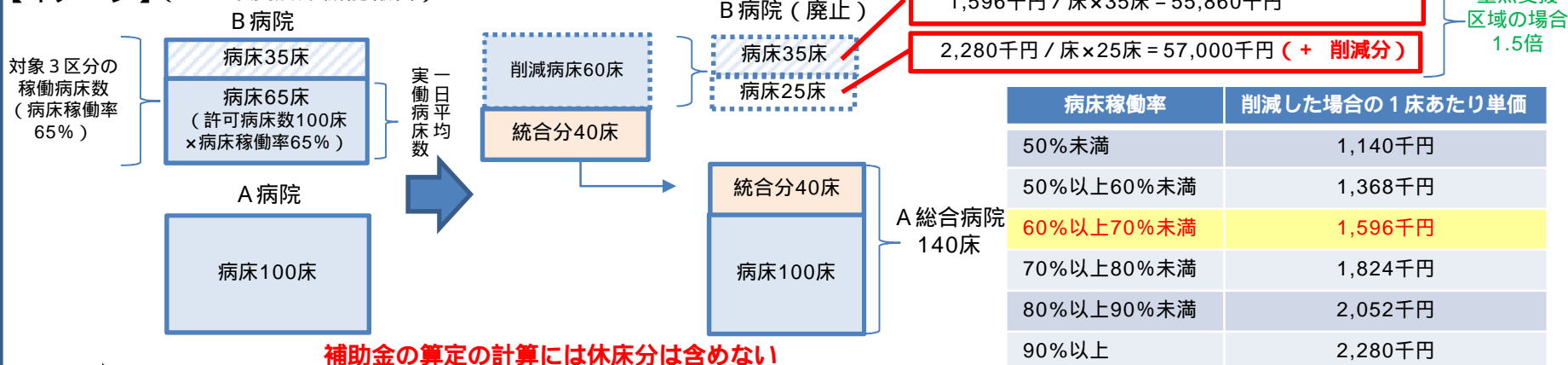
統合関係病院等の施設ごとに、平成30年度病床機能報告において、対象3区分として報告された病床の稼働病床数の合計から一日平均実働病床数（対象3区分の許可病床数に対象3区分の病床稼働率を乗じた数）までの間の削減について、対象3区分の病床稼働率に応じ、削減病床1床あたり算出された額の合計額を支給。

一日平均実働病床数以下まで削減する場合は、一日平均実働病床数以下の削減病床については2,280千円/床を交付。

上記及びの算定にあたっては、**回復期機能への転換病床数及び介護医療院への転換病床数を除く。**

**重点支援区域**として指定された統合関係病院等については、算定された金額に**1.5を乗じて算定**された額の合計額を支給。

#### 【イメージ】（H30年度病床機能報告）



**（55,860千円） + （57,000千円） = 112,860千円の交付**

### 3. 病院の債務整理に必要な借入資金に対する支援

地域医療構想を実現するために必要な病院の統廃合において、廃止病院の未返済の債務を統合後に存続する病院が新たに融資を受けて返済する場合、当該融資に係る利子の全部又は一部に相当する額に給付金を支給する。

#### 支給対象

地域医療構想に基づく病院等の統合計画に参加し、統合後に存続している病院であって、統合によって廃止となる病院の未返済の債務を返済するために金融機関から新たに融資を受けた病院（以下「承継病院」）の開設者であること。

#### 支給要件

地域医療構想を達成するために必要な統合であるとして、地域医療構想調整会議の議論の内容及び都道府県医療審議会の意見を踏まえ、都道府県が必要と認めた統合計画において、統合後に存続している病院であること（「2. 医療機関統合支援」の支給対象でない場合は支援の対象外）。

統合によって廃止となる病院の未返済の債務を返済するために金融機関から新たに融資を受けていること。

金融機関から取引停止処分を受けていないこと。

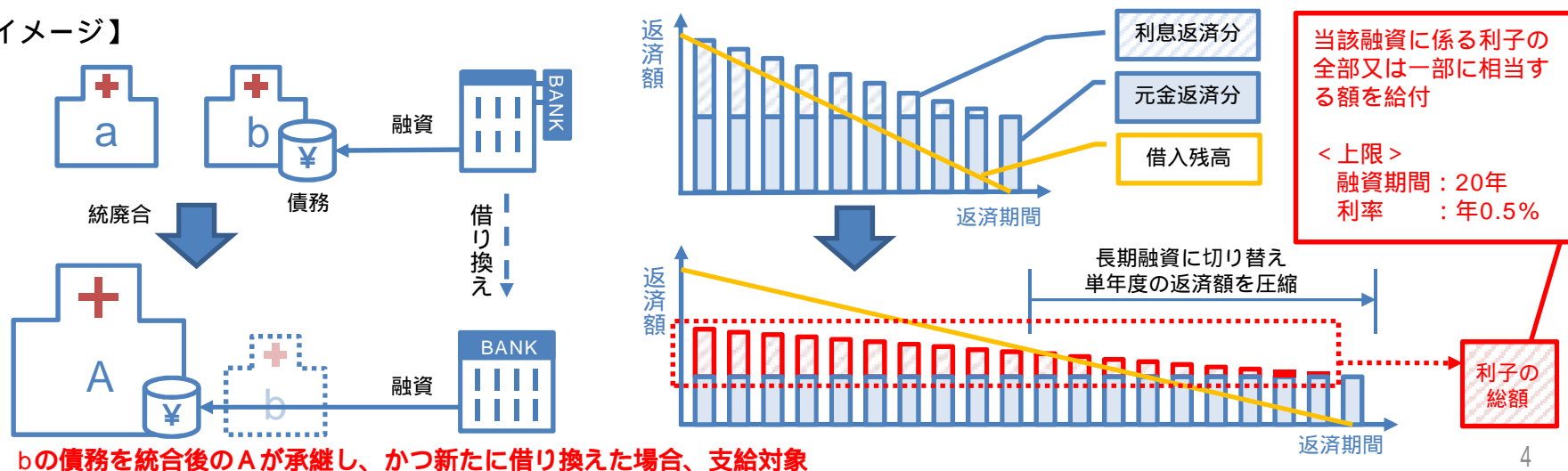
国税、社会保険料、労働保険料を滞納していないこと。

#### 支給額の算定方法

令和2年4月1日から令和3年3月31日までの間に、承継病院が統合によって廃止となる病院の未返済の債務を返済するために、金融機関から新たに受けた融資に対する利子の総額。

ただし、融資期間は20年、元本に対する利率は年0.5%を上限として算定。

#### 【イメージ】



## 地域医療介護総合確保基金の活用と新たな病床機能の再編支援の整理

地域医療構想を推進するため、地域医療介護総合確保基金（区分：地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業）により財政支援（国：2/3、都道府県1/3）を行っている。

○令和2年度においては、新たな病床機能の再編支援として、全額国費による事業を創設（令和3年度以降においては、消費税財源による事業とするための法改正を行った上で「病床機能再編支援事業（仮称）」として実施）。

○今後は地域医療介護総合確保基金と新たな病床機能の再編支援の組み合わせにより再編統合案件に対する支援額の規模を拡大するとともに、財政支援の死角を無くし、地域医療構想の推進を加速化する。

### 支援策

#### 新たな病床機能の再編支援 (令和2年度全額国費84億円)

病床削減に伴う財政支援

病床削減した病院等に対し、削減病床数等に応じた支援

病院統合に伴う財政支援

（ア）病院統合を伴う病床削減を行う場合のコストに充当するための支援  
関係病院全体へ交付し、配分は病院間で調整  
重点支援区域については一層手厚く支援

（イ）統合に伴って引き継がれる残債を、より長期の債務に借り換える  
際の利払い費の支援

ともに稼働病床の10%以上削減することが条件

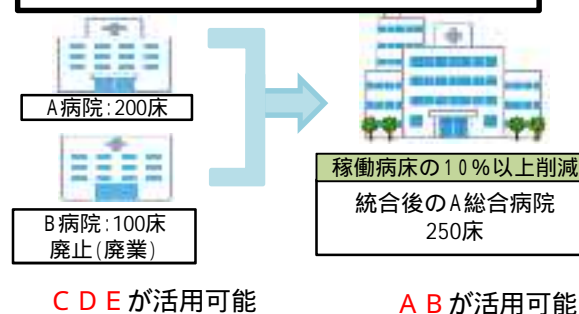
確保基金では対処できない課題について対処

#### 地域医療介護総合確保基金(令和2年度公費560億円(区分))

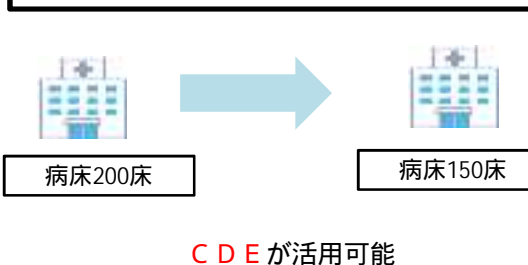
- A 再編統合に伴い必要となる施設・設備整備費
- B 再編統合と一体的に行う宿舎・院内保育所の施設整備費
- C 急性期病床から回復期病床等への転換に要する建設費用
- D 不要となる建物（病棟・病室等）・医療機器の処分（廃棄、解体又は売却）に係る損失
- E 早期退職制度の活用により上積みされた退職金の割増相当額

施設・設備の整備に係る費用が基本

#### 複数病院の統合の活用事例



#### 単独病院の病床削減活用事例



#### 病床の機能転換

基金のCの活用が可能